特定非営利活動法人 希望と輝きのまちひがしねを創造する

第36号 2018年9月

クリエイトひがしねニュース

発行 NPO法人クリエイトひがしね 999-3796 山形県東根市中央1-5-1 タントクルセンター内
TEL 0237-43-1155 www.higashine.org 発行責任者 菊 地 和 博

7月19日、土田市長を迎えて来場者とともに200万人達成を祝いました

見よ 子の満開の笑顔を

タントクルセンター
子育てセンター長 丹 野 久 江

けやきホールに、毎日太り続けている一本の柱があることをご存知でしょうか。夏のミステリーの話ではありません。けやきホールで遊んだ子ども達が帰るとき、名前シールを貼っていく柱です。遊びきった子の手の温かさを養分にしている柱です。時々訪れる中高生達が、この柱に触れて幼かった自分を懐かしむロマンチックな柱でもあります。さて、この柱が見守る中、今年の７月15日、200万人の来館者を迎えました。平成17年4月に開館して7年後の平成23年に100万人、そしてその7年後の200万人です。

振り返れば、タントクルセンターが保健福祉センターとしてオープンするにあたり、市民検討委員会の一人として、この中に子ども達が伸びのび遊べる空間を作って欲しいとお願いし、土田東根市長の勇断を頂いた日のことが忘れられません。当時、都市化が進む中で、子ども達が群がって遊んでいた原っぱに代わる空間として、どんな遊び場を創ろうかを真剣に議論しました。子どもたちには走る、登る、跳ぶ、屈む、伸びる、つかまる、渡る、滑る、そして探検、冒険等々が思いっきりできる広さ、高さ、明るさが必須なのです。

それらを精一杯とり入れて創り上げたけやきホールにやってくる子どもたちを見ていると、〝子どもたちはいつでも動いている〟、子どもは成長したいから動かないではいられないのです。けやきホールに入ると、子どもの身体・頭・心に成長のスイッチが入る。だから子どもたちは遊びまくる。その遊びきったときの子どもの満開の笑顔こそが「自分をつくる、自分という人をつくり上げる」、遊んで育つとはこういうことなのです。

満面の笑みを浮かべて帰る親子を見送るとき、「子育ての幸せ」の極上の絵を見る思いになります。このけやきホールの魅力といえる「場の力」を、また明日もと、みんなで出し続けていきたいと思っています。

東根市市制施行60周年記念事業

内田美智子氏講演会

6月30日（土）東根市市制施行60周年記念事業子ども子育てフェスタで、助産師　内田美智子氏をお招きし、「いただいた『命』、つないでいく『命』どう生きていますか？」と題し講演会を開催しました。

講演の内容から

◆全ての命は「奇跡の命」であり、命は命がけの末に生まれてきます。親は自分とは別の人格を育てるのだから大変なのは当たり前。子育ては失うエネルギーも多いがもらうエネルギーも多い。だから命がけで育てましょう。

◆人は、そこにいるだけで価値があり、生きるために生まれ、誰かに愛されるために生まれてきます。そして人間になります。

◆ひとりで生きていける子どもを育てるのが大人の役目です。乳児期には胸を離すなすな、幼児期には手を離すな、学童期には目を離すな、思春期には心を離すな。かけ時とかけ方を間違えないようにしましょう。

◆生まれ落ちた時はどの子もキラキラ輝きピュアです。昨日取り上げた子も30年前の子も赤ん坊は少しも変わっていません。変わったのは大人と大人の作った社会です。

◆食事事情も風景も変わりましたが、人の身体は食べ物でできています。「食べることは生きることそのもの」、行動が変わらなければ何も変わりません。みなさん一人ひとりが今日から何をするかが問題です。

講演を聞いて

当日受講した皆さんから寄せられた感想の一部を紹介します

◇生きているだけで奇跡ということたくさんの人に感謝の気持ちを忘れてはいけないなと改めて感じました。これからは命は大切ということを周りの人たちに伝えていけたらいいなと思います。

◇「食べることは生きること」、お母さんは子どもに何を食べたいと聞くのではなく体にいいものをつくって出す・・・我が家にも偏食の子がいるため耳がいたいなと。

◇家族で食卓を囲むことが楽しいと思える家族。この食卓の風景が我が子を通じて代々受け継がれていくことになるんだなと感じました。

東根市市制施行60周年記念事業

夜のけやきホール探検隊

大型モニターでなぞなぞに挑戦！

いつもとちがう雰囲気にワクワクドキドキ

普段は18時30分まで開館しているけやきホールですが、8月11日（土）は特別に20時まで延長して開館しました。外が暗くなり、スロープに沿って飾ったイルミネーションが輝き、普段とはまた違った雰囲気です。えほんのへやの中では、絵本シアターを開催しました。

なぞなぞ絵本のシアターは読み手と聞き手の掛け合いで盛り上がりました。けやきホールで大人気のさがせシリーズ『光る風船をさがせ!』も子ども達ははりきって挑戦してくれました。いつもより暗くてどきどきしたけど、仲間と一緒なら怖くない！　初めての参加者もうちとけて、みんなでわいわい賑やかに夜のけやきホールを楽しみました。

（髙橋幸江）

オールナイトあそびあ

あそびあランドでは、夏の恒例行事として「オールナイトあそびあ」を開催しています。市内のみの広報にもかかわらず、聞きつけた市外県外からの申し込みもありあそびあランドが多くの子どもたちから楽しまれていることが実感できます。今年は８月１日(水)、小学校3年生から中学校3年生までの子どもたち14名と、ボランティアの高校生2名の参加でにぎやかな長い長い夜が幕を開けました。

「オールナイトあそびあ」は最低限のルールは設けますが、基本的に子どもたちの行動は自由です。普段見ることのできない真っ暗なあそびあランドを散歩したり、恐怖の肝試しに挑戦したり、異年齢集団ならではの恋の話に花を咲かせていました。大人がいたら「早くご飯を食べなさい」「外に出るな」「早く寝なさい」なんて声が聞こえてきますが、この日だけは特別！！大人はあそびあランド職員2名だけ、自分たちの考え、タイミングで行動ができる夜は楽しくて仕方がないようです。「今日は寝ないから！」と気合の言葉が聞こえてきます。といっても、いつもよりは夜更かししている参加者も眠気には勝てません、午前12時を回ると一人またひとりと眠気に負けていきます。そんな中朝まで起きていた数名の子どもたちは睡魔と闘いながら誇らしげに帰っていくのでした。

この企画には「遊び」「挑戦」「関り」「自分で考える」とあそびあランドが大切にしていることが詰め込まれています。たった一晩の楽しみですが、参加者にとって一生の記憶に残る貴重な体験となることは間違いありません。子どもたちの自由な時間を少しでもつくれるようにあそびあランドの企画にさらに力を入れていきます。（齋藤翔太）

YBC「ぴよ卵ワイド」
あそびあランド生中継

８月17日（金）にＹＢＣ「ピヨ卵ワイド・出動！なまちゅう」のコーナーが、あそびあランドからの生中継で放送されました。山下アナがあそびあを体を張って体験。まずは斜面ゾーンの斜面すべり、マイダンボールを持参しての斜面登りから競争をスタート。私と山下アナとは同学年、三〇代の全力疾走はスピード感があり大興奮でした。

プレイパークでは、子どもたちと木工遊びやベーゴマを楽しみ、いよいよ今回のメインイベントの「泥スライダー」です。中継が始まる前からいつも遊びに来る子どもたちが泥スライダーで遊んで場を温めてくれました。

山下アナも子どもたちと一緒に泥スライダーに挑戦して大騒ぎ。それをまわりで見ていた子どもたちも遊びに参加、みんな泥まみれになって楽しみました。

つきそって来たお父さんも、泥スライダーが滑るように泥塗りで参加。協力してくれた参加者のおかげで、あそびあランドの楽しさがＰＲできたと思います。

テレビ放送後、斜面すべりや泥スライダーで遊ぶ子どもが増えてきました。あそびあランドにきたときは、ぜひ挑戦してください。（髙橋陽介）

けやきジュニア合唱団 ジュニア合唱フェスティバル に参加

8月19日（日）「ジュニア合唱フェスティバル2018」が、天童市民文化会館を会場に開催されました。この合唱祭は、日本少年少女合唱連盟と山形県少年少女合唱連盟との合同合唱祭ということで、全国で活動している少年少女合唱団が山形に集う貴重な機会となりました。同伴された松木保護者会長からは「県外からの素晴らしい合唱団の声は想像以上で、保護者の中には涙する人もいました。子供たちにもすごくいい刺激になったと思います。当日はちょっとハラハラしましたが、朝からのリハーサルはしっかり気合いが入っていて、本番は今までで一番の出来でした」とご報告をいただきました。

今年のこのあとの予定としては、10月8日（月・祝）タントクルセンターを会場に「山形うたごえ祭典inひがしね」、11月4日（日）東根市総合文化祭での音楽発表に出演する予定です。団員のお兄さんお姉さんの衣装もリニューアルして、凛々しさ＆可愛らしさが増してます。活躍の場がどんどんひろがっていく「けやきジュニア合唱団」です。歌うことが大好きな子、大募集しています！（事務局）

会場前で記念撮影

参加団体といっしょに合唱

東根市市制施行60周年記念事業

子ども・子育てフェスタ 第二弾！

ケロポンズファミリーコンサート

ケロポンズは、保育園や幼稚園で大人気。代表作「エビカニミクス」はYouTube動画再生回数が3,600万回を超え、子どもだけでなく大人も一緒に楽しめる、歌あり、笑いあり、あそびあり、体操あり、ミュージックパネルあり、なんでもあり～のステージの面白さは 宇宙的！

平成31年 3月23日（土）
午後2時開演

東根市民 市内通学通勤者 500円
（市外の方 1000円）

チケット販売開始
11月11日

賛助会員募集

ひがしねの子どもたちの健やかな成長のために皆さんの力をお貸しください

個人・団体・事業所様からの財政的な支援をお願いしております。詳しくは事務局にお問い合わせください。

一口 2000円より

編集後記

★「青い空は青いままで子どもらに伝えたい～」という歌があります。自然環境も含めて私たちが親の代からから受け継いできたものを、そっくり子どもたちに贈りたいという想いが込められています。ところが今年の夏は異常気象に地震が加わり、自然の脅威を目の当たりにしてきました。人類は快適さと引き換えに何を犠牲にしてきたのでしょうか。目の前の便利さのツケを子孫に残さないような生き方を迫られているような気がします。（M）